

BUDŌ

NEWS

今月のニュース



日本武道学会第47回大会
福山市立大学で開催



本部企画

日本武道学会第47回大会 中学校武道を4年ぶりに 本部企画テーマに掲げて開催

日本武道学会第47回大会（主催：日本武道学会）が9月10日・11日の2日間、広島県福山市の福山市立大 学港町キャンパスで開催された。

一般研究発表は、人文・社会科学系、自然科学系、武道指導法系の3分野の口頭発表と、ポスター発表の形式に分かれて行われ、計85題の発表があった。

また、1日目の午後は武道学会総会、地元広島に伝わる古武道である 濹川一流柔術の公開演武、そして本部企画として本村清人日本武道学会副会長（東京女子体育大学）による特別講演「中学校武道実施への対応 成果と課題を探る」が行われた。

2日目の午後は、柔道、剣道、弓道、空手道、なぎなた、障がい者武道の6専門分科会ごとに企画が行われた。

一般研究発表

一般研究発表は各日午前中に行われた。2日間で人文・社会科学系21題、自然科学系22題、武道指導法系21題、ポスター発表21題が行われた。以下、発表の一部を紹介する。

〈人文・社会科学系〉

▽矢野裕介（日本体育大学）

「大日本帝国剣道形の増補加註に関する新資料の発見とその意義」

日本剣道形は大正元年に制定され、同6年に加註、昭和8年に増補加註したものを原本としている。増補加註を施す過程の討議内容は不明であったが、増補加註の討議内容を記したメモ書きを入手することができ、内容と当該資料の意義について検討した。その結果、誰が、どの箇所、どのような意見を述べたかが判明した。そこからは当時の剣道形に対する考えや方法を読み解くことができ、剣道形の実態の究明（近代的解釈）に繋がるのではないかと。

▽軽米克尊（筑波大学研究員）

「直心影流の伝系に関する一考察―実際の成立過程との比較から―」

直心影流の伝書では松本備前守という人物が流祖とされる。そして、新陰流の上泉伊勢守は松本の流儀を継承したとされる。しかし、上泉の師として松本を挙げているのは直心影流だけであり、特異といえるこの流派の伝系を考察した。直心影流に

おいて、流派の起源をタケミカヅチとし、この神が活躍した神話を精神的な拠り所としようとした意図から、鹿島の地と深い関係を有する松本備前守を流祖とすることでタケミカヅチとの関係を確保し、松本の流儀が継承されていることを示すように流名および意味を書き換えられたと考えられる。

〈自然科学系〉

▽河籬和彦（関西学院大学）

「柔道受身直後の頭部の動きについて」

過去の研究で受身の発現頻度を分析したところ、全ての投げられる方向において、横受身の発現頻度が高かった。そこで、横受身をとるには意味があるのではないかと考え、横受身と後受身の受ける衝撃の差を検証した。結果は、重心落下速度、屈曲方向、回旋速度は有意な差がなかったが、伸展方向にはかなりの差が認められた。よって、衝撃緩衝能に關しては横受身が優れている。

▽安川生太（東京学芸大学大学院）

「転倒予防プログラム開発の可能性

の検討（日本伝統武道である柔道の重心制御の観点から）」

柔道の重心制御から転倒予防プログラム開発の可能性を検討することを目的に、柔道熟練者と非熟練者の重心移動や外乱時の危機感を感じる領域を調べた。その結果、熟練者は能動的に重心を動かせる実際の重心制御能力と、危険を直感的に感じる領域に近いことを示した。また、熟練者は重心の前方の領域が広く、柔

道は重心の前方移動を拡大する傾向にあり、危機認知に好影響を与えることが示唆された。以上のことから、柔道の鍛錬は転倒予防プログラム作成の可能性を秘めている。

〈武道指導法系〉

▽園部豊（日本体育大学）

「合気道授業における保健体育科教員の自信に関する予備的検討」

合気道授業を行う教員のほとんど



一般研究発表



会場となった福山市立大学

が未経験者である。教育実践への不安は、望ましい教育的効果を遂行できる信念といった「教師効力感」を低下させるが、これは研修会への参加によって増加する可能性があり、研修会前後による教員の自信の変化を予備的に検討した。結果、対象が少数という課題があるものの、研修会への参加によって授業遂行への自信の増加が確認された。また、補助教材としての手引書も自信増加の一助となった可能性がある。



ポスター発表

〈ポスター発表〉

▽河津梢（広島大学）

「柔道の見取り稽古についての研究―熟練度による比較―」

熟練度の違いによる見取り稽古における情報量や観測の視点の違いを明らかにすることを目的とした。初心者、経験者、熟練者の三群に分類して比較を行った結果、初心者群と経験者群では、安全面の項目やイメージに関わる項目に、見取り稽古の前後で有意差が見られた。また、観察の視点については、経験を重ねるにつれてより細かい点まで注目していることがわかった。以上のことから柔道授業では熟練度に応じた観察の視点を明示する必要がある。

武道学会総会

10日午後1時30分から武道学会総会が、木原資裕大会委員長（鳴門教育大学）の司会で行われた。総会に先立ち、福山市立大学・稲垣卓学長の挨拶と優秀論文賞の発表・授与がなされた。

稲垣学長は「全国から福山市立大学にご来校いただき、歓迎申し上げます。

まず。武道が持つ精神性は世界に通ずる普遍性を持った文化のひとつです。本学は教員養成を行っており、学校教育を通じた武道の発展にも期待したいと思います。大会の成功をご祈念いたします」と挨拶を述べた。

優秀論文賞には池田孝博氏（福岡県立大学）らによる「剣道場の床面塗装とスポーツ・障害および床面の機能性に関する主観的評価の関連」が選ばれ、共同研究者の本多壮太郎氏（福岡教育大学）が百鬼史訓会長から表彰を受けた。

総会開会の辞は、百鬼会長が述べた。

「平成24年度から中学校の武道必修化が実施され、大きなチャンスを得ました。しかし一方ではこの機に、武道の教育的意義、つまり武道を必修化してこのような子供が育つという社会的な現象が必要になってきます。そういう意味で皆様には指導を通じてながら、正しい方向に導いていただけるようご協力をお願いいたします。また、今回も若い研究者の発表が多く、良い内容もあることを嬉しく思います。先生方には今後も



優秀論文賞表彰

後継者を養成くださいますようお願いいたします」

その後、大保木輝雄（埼玉大学）と草間益良夫氏（広島大学）を議長に会の進行がなされた。まず名誉会員の推挙があり、杉山允宏、池田守利、佐々木武人の3氏を名誉会員とすることが承認された。

続いて平成25年度事業報告書案・決算書案の承認、平成26年度事業計画書案・予算書案の承認が行われた。最後に、来年の第48回大会が平成27年9月9日・10日に日本体育大学世田谷キャンパス（東京）で開催される事が承認された。

公開演武

10日午後3時から広島に伝わる澁川一流柔術の演武が行われた。はじめに森本邦生氏（貫注館）により流派の歴史、形の特徴、形の体系を説明がなされてから、形の演武が披露された。

本部企画

10日午後3時45分から本部企画として、本村清人日本武道学会副会長（東京女子体育大学）による特別講演「中学校武道実施への対応―成果と課題を探る―」が行われた。佐藤明氏（東北大学）、井下佳織



澁川一流柔術の公開演武

氏（帝京平成大学）が司会者となり、はじめに豊嶋建広氏（麗澤大学）が開催趣旨を「これまでも学会では課題と対策として議論重ねてきました。今年には必修化実施から3年目を迎えて、長年文部科学省に在籍していた本村清人副会長からお話をいただくことになりました」と説明してから、講演が始まった。



本村氏は、中学校武道実施について、次の三つの意見を先に述べた。

① 武道関係の方々は、武道だけの中学校の授業で伝統文化を伝えるものだと思っただけで、強く叫ぶが、伝統や文化の継承・発展は学校教育活動全体の取組であることの認識を持つていただきたい。

② 指導に関わる研究発表を充実させるとともに、本学会としてプロジェクトチームをつくり、学習指導要領改訂に向けた調査研究等をふまえた提言をしていくことが求められるのではないか。

③ 各分科会で学習内容と指導法の改善に一層努力するとともに、「武道で何を教えるか、何を身に付けさせるか」が重要であるという意識改

革、共通理解を求める必要がある。以上の意見をふまえた上で、まず必修化となった背景、武道の特性、武道指導の狙い、指導内容の確実と、実態を知るために文部科学省による指導状況や事故についての調査結果の説明をした。

そして、先の意見③「武道で何を教えるか、何を身に付けさせるか」に関して、具体的な提言を行った。

これまでの武道指導では「武道をどのように教えるか」という意識が強く、技の指導に力点が置かれていた。そのため武道を専門としない教員には指導が難しく、忌避されてきた。また、技能中心の授業においては、自由練習になると技の応用がでず、結局、何の技能も身に付いていなかったということがあり、問題を指摘した。

そこで、「21世紀型能力」（「基礎力」「思考力」「実践力」）から構成される。次期改訂に向けて国立教育政策研究所で議論されている（との関連から、「武道で何を教えるのか、何を身に付けさせるか」に重点を移し、誰もが指導可能な内容構成および指導法の研究開発をしていくのが



本部企画に集まった会員



本村清人日本武道学会副会長

本学会の役割ではないかと述べた。まず指導方法については、「動きとして」子供たちに身に付けさせること、誰でも指導できる動きから入っていくことが大切だとして、柔道を例に次のような具体例を挙げた。

仲間との関わりで豊かな心も育まれる。そして「わかった」「できた」という喜びから意欲が湧き、意欲によつて主体的に学ぶ態度が身に付いていくと論じた。

抑え技の指導だとしたら、最初に抑え込みの条件だけを教え、条件に合う動きを考えさせる。すると横四方固めなど技となる形をとる生徒が出てくるので、そこで、これが横四方固めだと教える。投げ技ならいくつかの似た技を一度に教える。そして授業後半では、生徒自身にそのうちの一つを選択させ、習得させる。

また、学習指導要領改訂において、ほとんどの運動領域が「動きの例」を重視しているのに対し、武道は「技（技能）の例示」となっているために「武道（技能）を教える」ことになり、「武道で何を身に付けさせるか」という意識改革ができないのではないかと述べた。

自ら選択してそれを得意技にしようと思うことで、自分なりの活動方法を見出だし、それなりに技ができるようになる。前回り受け身もマット運動の前転から始めれば良い。

そこで、武道に共通する動きとして「ナンバ」を挙げ、この動きを取り込み、その価値を理解させ、生活の中に一般化させるということもできるのではないかと見解を述べた。

このような指導を通して何を教えることができるか、何を身に付けさせることができるかという点、まずはその武道固有の楽しさである。技を教えるだけでは運動の楽しさ、喜びは味わえないと述べた。

講演が終わると、質疑応答が行われた。聴講者からは、「武道の楽しさとは、基礎をしっかりと行ってこそ分かるものです。それが武道の特性なのではないでしょうか」との質問があった。

さらに、そのプロセスで思考力、判断力、そして表現力が身に付く。

これに対して本村氏は、「短い時間の中で楽しさを見いださせないと子供たちは動きません。面白くし

て、それらしくできたら、自分で高めていく。そしてもう一回戻る。そのような『基礎へ戻る流れ』によつて、安定した本当の意味での楽しさ・喜びが定着すると思います。その段階で初めて精神性を求めていけばよいのではないのでしょうか」と答えた。

開始から1時間15分、特別講演は盛会の裡に終了した。

専門分科会

11日の午後は専門分科会企画が開かれた。柔道、剣道、弓道、空手道、なぎなた、障がい者武道の各分科会ごとに講演や発表、ディスカッションなどが行われた。

▽柔道専門分科会

「中学校武道必修化の現状について」と題して、小山秀謙（広島県市立昭和北中学校教諭）、山本堅一（広島県教育委員会事務局）、村田直樹（日本武道学会理事長）の三氏を講師として発表が行われた。

小山氏は教員として現場における柔道授業の取組について紹介。広島

県には柔道を現場で指導する教員が少なく、指導書も経験者にはわかっても素人の教員にはわからない点があると指摘した。

山本氏は県内の中学校における柔道の選択実績や教委としての取組等を紹介した。安全に配慮した無理のない指導計画の策定を指導するとともに、年1回は研修会を開き、安全対策に力を入れていくと述べた。

村田氏は武道の歴史的理解と教育的理解を示した後、柔道の歴史を解説。柔道は精力善用・自他共栄を実践する人材育成の道であると総括し、柔道によって良く考える人材を育成すると結論づけた。

▽剣道専門分科会

湯村正仁氏（剣道範士八段・医学博士）による講演「脳を活性化化する剣道」が行われた。脳を活性化する（働きを高める）ためには、脳は最大の酸素消費器官であることから呼吸・循環機能が良いこと、エネルギー源をブドウ糖とすることから消化器系機能が良いこと、一種の電気信号である情報伝達を行うための冷却機能、脳梁を介した左右の情報

り取りが速く行われることが基本となる。そして、これには姿勢を整える、呼吸を整える、身体左右の同調、心を整えることが効果的だが、正しい剣道をしていけば、これらのことが身に付くということも、脳や身体機能の説明とともに解説した。

▽弓道専門分科会

「体配の動作と体幹トレーニング」と題して佐藤明氏（東北大学）による発表が行われた。氏は、射礼において体幹にはアイソメトリックな負荷がかかり、筋力と筋持久力が要求されるとし、行射の上でも体幹と下肢の伸展が腕の働きを助けることから、体幹のトレーニングの必要性を説いた。

▽空手道専門分科会

井下佳織氏（帝京平成大学）による「ケガをさせない空手道の指導法―授業での安全管理」、菱木ひろみ氏（読売・日本テレビ文化センター講師）による「英語をとりいれた子どもから道教室―武道のグローバル化に向けて」、嘉手苅徹氏（早稲田大学院）による「型の構造に関

する一考察」の発表が行われた。

▽なぎなた専門分科会

「なぎなたの武道必修化における現状と課題」の題で、大野京子氏（全日本なぎなた連盟理事）による講義が行われた。38年間、中学校教諭を務めた氏は、中学校での実施状況や自身の体験を踏まえて、まず「なぎなたとは何？」という状況をなくすことが大事だとした。そのためには教員養成大学でのなぎなたのプロگرامが実施が効果的だと述べた。教員向け研究雑誌へ掲載して一般へ向けて発信することも有効だが、なぎなた界ではそのような人材がおらず、今後の若い修業者に期待したいと語った。また、講習会の情報が現場の教員にまで届かず、参加者が少ないという問題があると指摘した。

▽障がい者武道専門分科会

「障害者による武道を変える 障害者による武道で変わる―スウェーデン・オーストラリア・ニュージーランドでの知見から―」と題したシンポジウムが行われ、スウェーデン視察を行った岡崎祐史氏（武庫川女子



障がい者武道専門分科会の様子。スウェーデン視察に参加した武庫川女子大学生の演武を交えながら報告が行われた



大学)、近藤雅一氏（わらしべ園）、武庫川女子大学生による報告、オーストラリア・ニュージーランド視察を行った中島狩氏（障害者武道協会）の報告を中心に、意見交換がなされた。

自然科学系

演 題	発表者	所 属
柔道受身直後の頭部の動きについて	河鱈 一彦	関西学院大学
背負投における頭部衝撃時の生体力学応答	村山 晴夫	獨協医科大学
空手道競技会における外傷の様相	浅川 龍人	日本大学松戸歯学部
男子柔道選手における肩関節の柔軟性評価	菅藤 俊樹	筑波大学
大学柔道選手における股関節の柔軟性について (2)	松崎 守利	九州女子短期大学
神奈川県中学生柔道部員体力調査	鈴木 利一	日本スポーツ 振興センター
剣道の正面打撃動作に関する研究 ―体幹部の動きに着目して―	大野 達哉	順天堂大学大学院
剣道の正面打撃時間の短縮に及ぼすバイオメカニクスの要因の検討	村瀬 直樹	中京大学大学院
剣道選手の標準的3次元動作モデルを用いた打突動作に関する 一考察 ―実戦的な正面打突動作に着目して―	木村 悠生	筑波大学
自然科学的研究方法に対する誤解と武道における理論的研究 の必要性	坂井 伸之	山口大学
Kinect を用いた剣道支援システムの開発	飯田 大介	福井大学
柔道選手における「バネ」に関する意識調査	佐藤 武尊	皇學館大学
大学生柔道選手の季節・環境に対する意識調査	佐藤 康宏	帝京大学
大学柔道選手の減量の実態 ―競技レベルによる比較―	久保田浩史	岐阜大学
柔道における崩しの研究 ―重心からみた安定領域と不安域―	竹内 優香	東京学芸大学大学院
転倒予防プログラム開発の可能性の検討 ～日本伝統武道である柔道の重心制御の観点から～	安川 生太	東京学芸大学大学院
足趾力が柔道における攻撃防御の基礎動作の安定に及ぼす影響 について	小嶋 新太	日本体育大学
ドスコイバーを用いた押しパワーの発揮 ―床反力との関係に着目して―	齊藤 昌幸	東京学芸大学大学院
柔道投技の打ち込み・投げ込み練習のスピードと競技力の関係	高橋 陸	東海大学大学院
間欠的な全力ペダリングトレーニングが柔道選手の運動能力 に及ぼす影響	佐藤 雄太	鹿屋体育大学大学院
ACE 遺伝子多型は日本人柔道選手の形態および体力に影響しない	上水研一朗	東海大学
柔道競技における故意的な過呼吸が競技パフォーマンスと疲労改善 に及ぼす影響	高田 博文	順天堂大学大学院

一般研究発表演題・発表者一覧①

人文・社会科学系

演 題	発表者	所 属
山本流居合術考	早坂 義文	日本古武道振興会
嘉納治五郎清國巡遊記考 其の二 —北京に於ける交友関係を中心にして—	東 憲一	東京外国語大学
ドイツにおける柔道の受容に関する研究 —昇段審査規定に見られる柔道観を中心に—	マーヤ・ソリドール	上智大学
『兵法家伝書』にみる「機前」について	佐藤 皓也	埼玉大学大学院
武蔵国多摩郡犬目村の大平真鏡流について —八王子千人同心・斎藤家文書の整理を通して—	数馬 広二	工学院大学
龍野藩槍術師範・脇坂巖の槍術について —日下一旨流・鏡新流・種田流—	石川 哲也	尚稽館
人口高齢化に武道体験が果たす役割 —健康生成論の視点から—	石塚 正一	国際武道大学
武道教育の現在性について	宍戸 柚香	国士舘大学大学院
柔道全日本選手権と武道必修化	カドー・イブ	日本研究センター (CEJ)
大日本帝国剣道形の増補加註に関する新史料の発見とその意義	矢野 裕介	日本体育大学
師範学校における武道に関する一考察 『全国師範学校ニ関スル諸調査』を中心として	宮地 広樹	大阪教育大学大学院
フランス、スイス、日本における柔道練習生のストレス対処行動 とセルフエスティームに関する比較研究 (第2報)	平野 嘉彦	京都外国語大学
柔道選手の心理的スキルに関する研究	山本 浩二	神戸医療福祉大学
中学校柔道履修者のイメージ調査	小崎 亮輔	順天堂大学大学院
韓国剣道における審判に関する研究 —韓国大学剣道連盟での5人制審判法の復活—	加藤 純一	文教大学
国際化に伴う剣道の価値に関する研究 —日本剣道 KENDO と韓国剣道 KUMDO の 大学生選手の比較から—	小田 佳子	東海学園大学
The concept of Ki: some theoretical and practical considerations regarding to Japanese Spirit. An anthropology of Kendo in Japan and Brazil	Gil Vicente Nagai LOURENCAO	Federal University of Sao Carlos/ Brazil; Tsukuba University
伝統派空手の“組手競技”に関する史的 研究 —1980年代から現在における“組手 競技”の変容要因に着目して—	内田 雄大	日本体育大学大学院
加藤田平八郎の廻国修行について —文政 12年の日記を中心に—	森本 邦生	広島県立佐伯高等 学校
直心影流の伝系に関する一考察 —実際 の成立過程との比較から—	軽米 克尊	筑波大学研究員
起倒流柔術の技法と稽古観に関する一考 察：真田家文書を中心に	桐生 習作	筑波大学

ポスター発表

演 題	発表者	所 属
「ロンドンオリンピック柔道選手の動作分析」 — 60kg 以下級および 100kg 超級を対象として—	岡田 龍司	近畿大学
Special Judo Fitness Test を用いた男子大学柔道選手の体力特性の検討	石橋 剛士	熊本学園大学
中学校柔道の授業教材としての『技をかける「きっかけ」』の構築	小澤 雄二	熊本大学
小・中学生の柔道選手を対象に実施した脳震盪に関するアンケート調査結果 —指導者講習会での調査結果と比較して—	森崎由理江	鹿屋体育大学
柔道衣及び畳に付着した黄色ブドウ球菌の生残性	山本小百合	筑波大学
柔道の見取り稽古についての研究 —熟練度による比較—	河津 梢	広島大学大学院
血流制限下における技術トレーニング効果の検討	大川 康隆	東海大学
NIRS を用いた剣道の攻めにおける脳血流の計測	後藤 淳	福井大学
剣道競技における間合いの詰め引きの熟練	奥村 基生	東京学芸大学
剣道用踏込み力緩衝サポーターの開発	高橋健太郎	関東学院大学
大学男子柔道選手を対象とした減量時の心理的負担軽減方法の検討 —自律訓練法を用いて—	藤本 太陽	日本体育大学大学院
自律訓練法による柔道稽古におけるフローの向上	谷木 龍男	清和大学
大学柔道選手における合宿時の心理的コンディション評価 —心理的コンディションに着目して—	鈴木なつ未	筑波大学
柔道競技者のスポーツ遺伝子の特徴	射手矢 岬	東京学芸大学
武道競技者の踏み込み動作における大腿部筋電図活動パターンの解析	麓 正樹	東京国際大学
礼法歩行の特徴	佐藤 明	東北大学
弓道と肩関節可動域の関係	竹澤 鮎美	広瀬医院
剣道授業に用いられるアナログの加速度計を用いた動作解析	上田 純也	茨城大学大学院
中学校剣道授業における攻防学習の授業実践	後藤 飛大	茨城大学大学院
長野県の中学校剣道授業における外傷・障害の発生と指導状況の関連性	廣野 準一	信州大学
学校しない競技の「袋しない」の構造と製作過程 —古流で使用される袋しないとの比較から—	横地 浩紀	春風館

一般研究発表演題・発表者一覧②

武道指導法系

演 題	発表者	所 属
世界剣道選手権大会にみられた有効打突について： 15 WKC イタリア大会から	武藤健一郎	成蹊大学
剣道の試合における防御姿勢の実態に関する調査研究（その2）	笹木 春光	東海大学
剣道における諸手左上段の技法に関する考察 —指導書の記述を手がかりにして—	大矢 稔	国際武道大学
すり足の技術習得を目的とした稽古法の検討	椿 武	環太平洋大学短期大 学部
剣道初心者の打突動作習得における「送り足」動作と竹刀操作 の関係	今福 一寿	明星大学
剣道初心者における指導言語による打撃力と打撃フォームの変化 について	天野 聡	東海大学
形の技能評価原論（8） —「水車」の理合いについて	村田 直樹	講道館
古式の形の技術的研究 —演技時間と技能との関連について	松本 龍弥	東京都柔道連盟
「足型シート」の有効性の検討	藪根 敏和	京都教育大学
初転君を用いた指導が中学生柔道初心者の前回り受身に及ぼす 即時的効果	濱田 初幸	鹿屋体育大学
中学校武道領域につながる小学校体育科における体づくり運動 について —小学校高学年を対象とした授業実践から—	坂本千帆里	大阪教育大学大学院
合気道授業における保健体育科教員の自信に関する予備的検討	園部 豊	日本体育大学
柔道選手における競技力の主観的評価尺度の検討 —2013年全日本選抜柔道体重別選手権大会を例に—	前川 直也	国際武道大学
大学柔道部新入生におけるストレスに関する研究	渡部 将之	大阪産業大学大学院
ルール変更に伴う競技内容の分析 —全日本柔道選手権大会・皇后杯全日本女子柔道選手権大会 (2010・2011年大会)を対象として—	坂本 道人	福岡大学
国際柔道連盟試合審判規定の改正が競技内容に及ぼす影響： グランプリ・デュッセルドルフ2013と2014の比較	三宅 恵介	中京大学
2013 IJF ルール改正に伴う組手戦術行動にみる投技効力の変化 について	伊藤 潔	富士大学
アマチュア相撲大会における決まり手の国際大会と国内大会 の比較	松浦 麻乃	静岡県体育協会
剣道指導者研修会参加教員の意識調査 ～感想文の言語分析を用いた剣道授業のあり方～	松本 一記	大阪体育大学大学院
剣道授業における「出ばな小手」の学習指導に関する研究	立野龍太郎	福岡教育大学大学院
仲間と協同的に取り組む剣道の戦術学習に関する研究	本多壮太郎	福岡教育大学

好評発売中

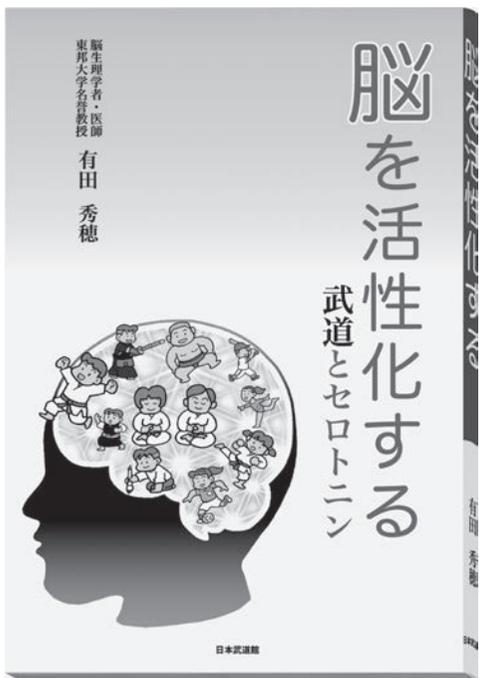
脳生理学者・医師
東邦大学名誉教授

有田 秀穂 著

脳を活性化する

武道とセロトニン

人間の心身を安定させ、「無心」の状態を作るセロトニン神経―その研究の第一人者が、丹田呼吸法を手懸かりに、武道や禅、日本文化を題材として、誰もが
できる脳を活性化する方法をわかりやすく解説。



A5判・並製・346頁・1600円+税

有田 秀穂
(ありた・ひでほ)

昭和23年(1948)東京都生まれ。東京大学医学部卒業。東海大学医学部助手、筑波大学基礎医学系講師、東邦大学医学部教授を経て、現在、東邦大学名誉教授。脳生理学者、医師。セロトニン道場代表。



主な内容

第1部 脳の活性化とは

坐禅とセロトニン

ストレッチとしごき

空海はセロトニン活性の達人

『弓と禅』に学ぶ身体トレーニング

沢庵の「不動智」とワーキングメモリー

不動明王と心の三原色

『弓と禅』に学ぶ無意識の自己意識

悪夢を消すには？

精進料理とセロトニン合成

「茶の湯」とセロトニンの生活

「自然に体が動いた」を脳科学で解く

勝海舟の「明鏡止水の心」を脳科学する

「武道の礼法」は社会脳を育む

相撲の「四股」は品性を育む

書道も心技体の人間修行

アンドロゲンと闘争心

日本の祭にはセロトニンがたっぷり

スキンシップとオキシトシン

空手の稽古は坐禅修行に通じる

脳は「丹田呼吸法」をどう操るか

試合における最適な覚醒状態

サイエンスは「気」をどこまで解明したか

仙人術を脳科学する

第2部 対談「武道で脳を活性化しよう」

日本武道館会長 松永 光

東邦大学名誉教授 有田 秀穂

： 他

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本 (本をクリックすると、詳細が表示されます)



日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

(翻訳・編集:アレキサンダー・ベネット)
(B5判・上製・DVD付・336頁)



武士道に学ぶ

皇學館大学教授
菅野 覚明 著
(四六判・上製・344頁)



武道の礼法

弓馬術礼法小笠原教場三十一世宗家
小笠原清忠 著
(四六判・上製・278頁)



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授
田代しんたろう 著
(B5判・並製・236頁)



武道における 身体と心

神戸学院大学教授
前林 清和 著
(四六判・上製・370頁)



<増補版>

私も武道経験者です

月刊「武道」記者
吉野 喜信 著
(四六判・上製・326頁)



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授
中村 民雄 著
(四六判・上製・370頁)



大先輩に聞く

月刊「武道」記者
田谷 将俊 著
(四六判・上製・376頁)



武道・ スポーツの真髄

スポーツドクター
辻 秀一 著
(四六判・上製・248頁)



武道 子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー
菅野 純 著
(四六判・上製・410頁)



武の素描

埼玉大学教授
大保木輝雄 著
(四六判・上製・220頁)

平成26年度全国警察柔道・剣道選手権大会

柔道
男子90kg級は加藤博剛（千葉）
女子63kg超級は市橋寿々華（大阪）が2連覇

平成26年度全国警察柔道・剣道選手権大会（主催＝警察庁）は9月5日、日本武道館で行われ、警察柔道・剣道の個人日本一が争われた。

柔道男子は6階級、女子は2階級で行われ、男子90kg級では加藤博剛（千葉）が2連覇、3回目の優勝を果たした。女子63kg超級では、市橋寿々華（大阪）が2連覇を達成した（その他の階級は大会結果欄を参照）。

剣道男子は畠中宏輔（警視庁）、女子は大石弓絵（大阪）が初優勝に輝いた。



柔道男子90kg級決勝＝加藤（奥）対五十嵐



柔道女子63kg超級決勝＝市橋（上）対橋口。市橋が横四方固で一本勝

大会には皇宮警察本部及び各都道府県警察が推薦する選手、および所定の大会で一定以上の成績を収めた選手388名が出場した。柔道は男子が無差別、100kg級、90kg級、81kg級、73kg級、66kg級の6階級で、女子が63kg超級、63kg級以下級の2階級で行われ、剣道は男女の部でそれぞれ競われた。

柔道男子は一試合5分、女子は4分間の一本勝負とし、時間内に勝敗が決しない場合は、ゴールデンスコア方式による時間無制限の延長戦が行われた。

行われた。剣道は時間無制限の一本勝負で争われた。

■柔道

◇男子

昨年度の90kg級優勝の加藤博剛（千葉）は順当に勝ち上がり、決勝で五十嵐遼介（新潟）と対戦。加藤は腕挫十字固を決め、2連覇を果たした。

●90kg級優勝Ⅱ加藤博剛選手（千葉）

「勝たなきゃいけない大会だったのが、優勝できてほっとしています。警察の大会だけではなく、他の大会でも勝ち上がって、世界を目指したいです」

◇女子

連覇のかかる市橋寿々華（大阪）は、決勝で同じ大阪府警の橋口ななみと対戦。市橋は支釣込足からの横四方固で一本勝ちし、2連覇を達成した。

●63kg超級優勝Ⅱ市橋寿々華選手（大阪）

「手の内を知っている相手だけに、戦いにくかったです。でも、そのことをあまり意識すると後ろに下がってしまうので、そのようなことは考えずに、自分の柔道をしようという気持ちで頑張りました」

剣道

男子は畠中宏輔(警視庁) 女子は大石弓絵(大阪)

が初優勝



剣道女子決勝=大石(左)が髻坂に突きを決める



剣道男子決勝=畠中(右)対竹下

■剣道

◇男子

優勝経験のある網代忠勝(兵庫)、木和田大起(大阪)、内村良一(警視庁)らの選手は決勝へは勝ち上がりできなかった。決勝は、畠中宏輔(警視庁)と竹下洋平(大分)との対戦。

竹下は面を打ったが、畠中は後ろに下がり、面を躲し、引き小手を決めた。3回目の出場で畠中が初優勝を遂げた。

●優勝 畠中宏輔選手(警視庁)

「明日は全日本選手権の予選があるので気持ちを切り替え、挑戦者の気

持ちで頑張ります」

◇女子

決勝には大石弓絵(大阪)と、3連覇のかかる山本真理子(大阪)を準々決勝で降した髻坂沙記(兵庫)が対戦した。

鏝迫り合いからお互いに離れた後、先に間合いを詰めたのは大石。

髻坂が打に出ようとしたところを、大石の鋭い諸手突きが決まり、嬉しい

初優勝に輝いた。

●優勝 大石弓絵選手(大阪)

「今日の結果については信じられませんが、受けに入らないように攻めていく気持ちを忘れないようにしました。決勝前は、自分の剣道を思いっきりやろうと思えました。突きは自信のある技です。普段の稽古では、突きの練習も意識して行っていました」

【大会結果】

■柔道

◇男子

▽無差別 ①檜崎誠(佐賀) ②橋本憲宗(岩手) ③岡野武芳(茨城)、岩崎耕平(京都)

▽100kg級 ①藤原浩司(長崎) ②古田秀州(神奈川) ③森田圭(大阪)、宮崎賢司(神奈川)

▽90kg級 ①加藤博剛(千葉) ②五十嵐遼介(新潟) ③長尾翔太(兵庫)、佐藤和幸(愛知)

▽81kg級 ①山下諒輔(静岡) ②武藤力也(神奈川) ③藤田武志(石川)、田中英晴(埼玉)

▽73kg級 ①大畑佑介(宮崎) ②新垣直也(沖縄) ③佐野望(京都)、金岡真司(警視庁)

▽女子

▽66kg級 ①正治和也(静岡) ②渡部朋之(神奈川) ③三枝智哉(千葉)、肥後翔太(京都)

▽63kg超級 ①市橋寿々華(大阪) ②橋口ななみ(大阪) ③浅井仁美(大阪)、炭竈仁美(岐阜)

■剣道

◇男子 ①畠中宏輔(警視庁) ②竹下洋平(大分) ③升田良(大阪)、川口武光(大阪)

◇女子 ①大石弓絵(大阪) ②髻坂沙記(兵庫) ③田中美紀(警視庁)、川口美和(大阪)

日本武道館の単行本

著者の80年の生涯にわたる 剣道修錬を集大成した 本格的剣道修行論

好評発売中!



(写真提供：剣道時代)

剣の清流

全日本剣道連盟相談役・剣道範士九段

堀籠

敬藏 著

(四六判・上製・344頁)

目次

- 第一章 剣道
- 第二章 剣道の歴史
- 第三章 修錬・先人に学ぶ
- 第四章 剣道の極意
- 第五章 武道における「礼」
- 第六章 剣理
- 第七章 指導者としての心構え

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本 (本をクリックすると、詳細が表示されます)



日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集:アレキサンダー・ベネット

(B5判・上製・DVD付・336頁)



高め合う剣道

筑波大学名誉教授

佐藤 成明 著

(四六判・上製・564頁)



刀剣の 歴史と思想

筑波大学大学院准教授

酒井 利信 著

(四六判・上製・346頁)



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

(B5判・並製・236頁)



武道における 身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

(四六判・上製・370頁)



禅の思想と剣術

北海道大学大学院教授

佐藤 錬太郎 著

(四六判・上製・386頁)



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

(四六判・上製・370頁)



人を育てる剣道

剣道範士八段

角 正武 著

(四六判・上製・268頁)



武道 過去・現在・未来

国際武道大学教授

田中 守 著

(四六判・上製・274頁)



兵法家伝書に学ぶ

文教大学教授

加藤 純一 著

(四六判・上製・344頁)



剣道で 学び得たもの

中京大学教授

林 邦夫 著

(四六判・上製・298頁)



団体組手一般男子の部決勝大将戦＝名空会・小林（左）対東京大学拳法会・広川



優勝した名空会

第50回和道会全国空手道競技大会

組手団体・一般男子の部

名空会が初優勝

第50回和道会全国空手道競技大会は8月16日・17日の2日間にわたって開催された。16日は浦安市運動公園総合体育館で予選が行われ、17日は日本武道館で決勝戦が行われた。大会では小学1年生からシニアまで全38部門の試合が展開された。

《組手団体戦》

◆一般男子の部

16チームが出場。前回優勝の偶成会高木道場は1回戦で名空会に敗れた。決勝には、名空会と前回準優勝の東京大学拳法会が勝ち進んだ。

決勝戦、名空会が先鋒戦は3―2、次鋒戦は8―2で東京大学拳法会を降してリードする。しかし、東京大学拳法会も中堅戦は4―0、副将戦は9―1で勝ち、勝負の行方は大将戦へ。

大将戦は名空会・小林対東京大学拳法会・広川。中盤、小林は上段突

きを決めると、さらに中段突き、上段突きとポイントを重ねる。広川には一本も取らせず、3-0で試合終了。名空会が初優勝を手にした。

◎優勝Ⅱ名空会・長谷川晃監督

「準決勝で選手にドクターストップがかかり、決勝は急遽他の選手に交替するハプニングもあったのですが、一人ひとりが自分の仕事をきちりやったことで、優勝という結果に繋がったのだと思います。今日は選手たちを褒めてあげたいですね」

◆一般女子の部

16チームが出場。決勝は2連覇中の立教大学と敬和会の対戦となった。先鋒戦は立教大学が勝利。中堅戦は敬和会が勝って同点とする。大将戦、立教大学・茂木が順調にポイントを重ね、8-0で試合を制して3連覇を決めた。

◎優勝Ⅱ立教大学・茂木ゆりか選手

「初めて組むメンバーで出場しましたが、負けても勝つても、次に繋げていけて良かったです。ただ、決

勝戦は課題の残る試合となってしまいました。技術も精神面も磨いていきたいです」

◆大学生男子の部

11チームが出場。決勝戦では立教大学が東海大学を破って優勝した。

◆都道府県対抗

6チームが出場。決勝は前回優勝の宮城県と千葉県の対戦となり、宮城県が連覇を決めた。

《組手個人戦》

◆一般男子の部

70名が出場。決勝には内田雄大（拳誠塾）と関場一弘（石巻）が勝ち進み、内田が優勝に輝いた。

◆一般女子の部

41名が出場。前回優勝の矢野朱美（立教大学）が今年も決勝に進出した。対するのは小池詩織（白水修養会）となった。小池が得点すると矢野が奪い返す接戦になる。終盤4-4に並



団体組手一般女子の部決勝大将戦
=立教大学・茂木（奥）対敬和会・小松



団体組手都道府県対抗決勝大将戦=宮城県・児玉（右）対千葉県・長田



個人組手一般女子の部決勝
=小池（右）対矢野



個人組手一般男子の部決勝
=内田（左）対関場

ぶと、終了間際に小池が上段突きを決めて勝利を収めた。

《形個人戦》

◆一般男子の部

41名が出場。決勝は前回優勝・伊藤祥太（福井）対前回準優勝・湯田浩成（東京農業大学）の同じ顔合わせとなった。両者ともチントウを演武。判定の結果、3―2で湯田が雪辱を果たした。

◆一般女子の部

30名が出場。決勝は岩本衣美里（クレーンコーポレーション）と小河咲月（愛知大学）の対戦となった。二人は前回も決勝で対戦した。岩本はチントウ、小河はニーセーシーを披露。結果は、旗5本とも岩本に上がり、5連覇を達成した。

◎優勝Ⅱ岩本衣美里選手

「決勝では少しかたくなってしまいました。会場の方の応援や拍手が心強かったです。大会のレベルが上がっているのです。勝ち続けるのは大変かもしれませんが、子どもたちの目標となるような選手になれるよう頑張ります」



形個人戦一般女子の部優勝＝岩本衣美里（チントウ）



形個人戦一般男子の部優勝＝湯田浩成（チントウ）

【大会結果】※優勝のみ

《組手団体戦》

▽都道府県対抗Ⅱ宮城県▽一般男子Ⅱ名空会▽大学生男子Ⅱ立教大学▽一般女子Ⅱ立教大学▽少年男子Ⅱはさま

《組手個人戦》

▽一般男子有段Ⅱ内田雄大（拳誠塾）
 △大学生男子有段Ⅱ西村拳（拳誠塾）
 △一般女子有段Ⅱ小池詩織（白水修養会）
 △シニア男子50歳以上ⅡMohammad Beboundi（イラン）
 △シニア男子40歳以上Ⅱ藤森大二郎（杉浦錬成塾本部）
 △シニア女子40歳以上Ⅱ斉藤師保（一道塾）
 △少年男子Ⅱ横井仁勇（修空会）
 △少年女子Ⅱ稲津紗輝（浜松修学舎高校）
 △中学男子Ⅱ幡野克弥（瑞空塾至誠道場）
 △中学女子Ⅱ谷津倉史音（瑞空塾至誠道場）
 △小学6年男子Ⅱ大谷功明（空手向上園内倶楽部）
 △小学6年女子Ⅱ小久保春那（越谷修道館）
 △小学5年男子Ⅱ山口凱（名空会研修センター）
 △小学5年女子Ⅱ保坂鈴乃（拳誠塾）
 △小学4年男子Ⅱ近藤大空（美濃）
 △小学4年女子Ⅱ新田里紗（広島東）
 △小学3年男女Ⅱ久世克樹（北方）
 △小学2年男女Ⅱ小



組手個人戦シニア女子40歳以上の部
決勝〓齊藤師保(右) 対河野美紀(左)



組手個人戦シニア男子40歳以上の部
決勝〓藤森大二郎(左) 対遠藤晃司(右)



組手個人戦少年男子の部
決勝〓横井仁勇(左) 対辻一寛(右)



組手個人戦大学生男子の部
決勝〓西村拳(左) 対飯村涼太(右)



形個人戦少年男子の部優勝〓渡辺山斗



形個人戦中学生女子の部
優勝〓小島七海



形個人戦中学生男子の部
優勝〓舟田葵



- 澤凜登(杉浦錬成塾本部) ▽小学1年男女〓黒澤力(昇政塾)
- 《形個人戦》
- ▽一般男子有段〓湯田浩成(東京農業大学) ▽一般女子有段〓岩本衣美里(クリーンコーポレーション) ▽シニア男子40歳以上〓沖本貫志(岩国) ▽シニア女子40歳以上〓雜賀弘美(昇政塾) ▽少年男子〓渡辺山斗(岐刑) ▽少年女子〓田口精華(札幌西) ▽中学男子〓舟田葵(津) ▽中学女子〓小島七海(津) ▽小学6年男女〓小島萌々果(育成館碧南)
 - ▽小学5年男女〓菊池ひかる(水風会名東) ▽小学4年男女〓井桁芽香(茂原) ▽小学3年男女〓邊田花乃(白水修養念) ▽小学2年男女〓水野光琉(名空会豊田) ▽小学1年男女〓平田結渚(JFE福山)

日本武道館の単行本

空手評論家
金城

裕
(きんじょう ひろし) 著

唐手から空手へ

題字 松永光日本武道館会長



(四六判・上製・四五四頁)

今の空手は、その源流である唐手からての精神と伝統の技を忘れて成長してしまった。空手の将来に豊かな展望を持つためにも、唐手誕生の歴史を正しく認識する必要がある。

空手修業歴八十年。生涯を空手に捧げてきた著者が史料を繙きながら、唐手が誕生し、空手となった過程を辿る。武道研究者必携の一書。

〈目次〉

- 第一章 「唐手」とは、の問いに答える
- 第二章 中国拳法を巡って
- 第三章 琉球と中国の関係史
- 第四章 松村宗昆、「手」に息吹きを与える
- 第五章 首里手から唐手へ
- 第六章 「唐手」から「空手」へ
- 終章 空手の進むべき道

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本 (本をクリックすると、詳細が表示されます)

日本の武道

日本武道館 編



一千数百年の歴史を有する武道の全容を一冊に集大成。武道小百科事典としても役立つ充実の巻末資料など、武道関係者必携の書。

(B5判・上製・箱入・526頁)

我が空手人生

金澤弘和 著



国際松濤館空手道連盟館長 金澤弘和 著
父母の教え、「からて」との出合い、厳しい修行、組織の結成、そして独自の空手理論構築まで、世界に空手を普及した男の記録。

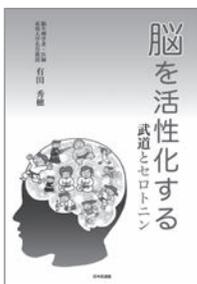
(四六判・上製・372頁)

脳を活性化する

武道とセロトニン

東邦大学名誉教授

有田秀穂 著

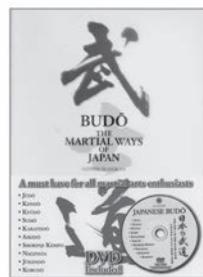


人間の心身を安定させるセロトニン——。その研究の第一人者が、誰もがができる脳を活性化させる方法をわかりやすく解説。

(A5判・並製・346頁)

BUDO: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

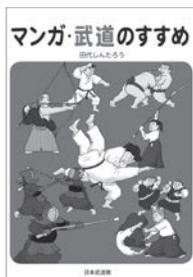


武道のすべてを網羅した『日本の武道』の英語版。海外武道修業者におすすめの書。

(B5判・上製・336頁・DVD付)

マンガ・武道のすすめ

田代しんたろう 著



漫画家・別府大学教授 田代しんたろう 著
武道の良さ、すばらしさを、わかりやすく描く。大人も子どもも読んで楽しく、ためになる武道教養マンガ。空手道は5話を掲載。

(B5判・並製・236頁)

大先輩に聞く

田谷将俊 著

月刊「武道」記者



各武道の先達三十名に直接取材。武道との出会いから修行時代、そして現在を語る。空手道では江里口栄一、辻川禎親、金城裕の3氏を収録。

(四六判・上製・376頁)